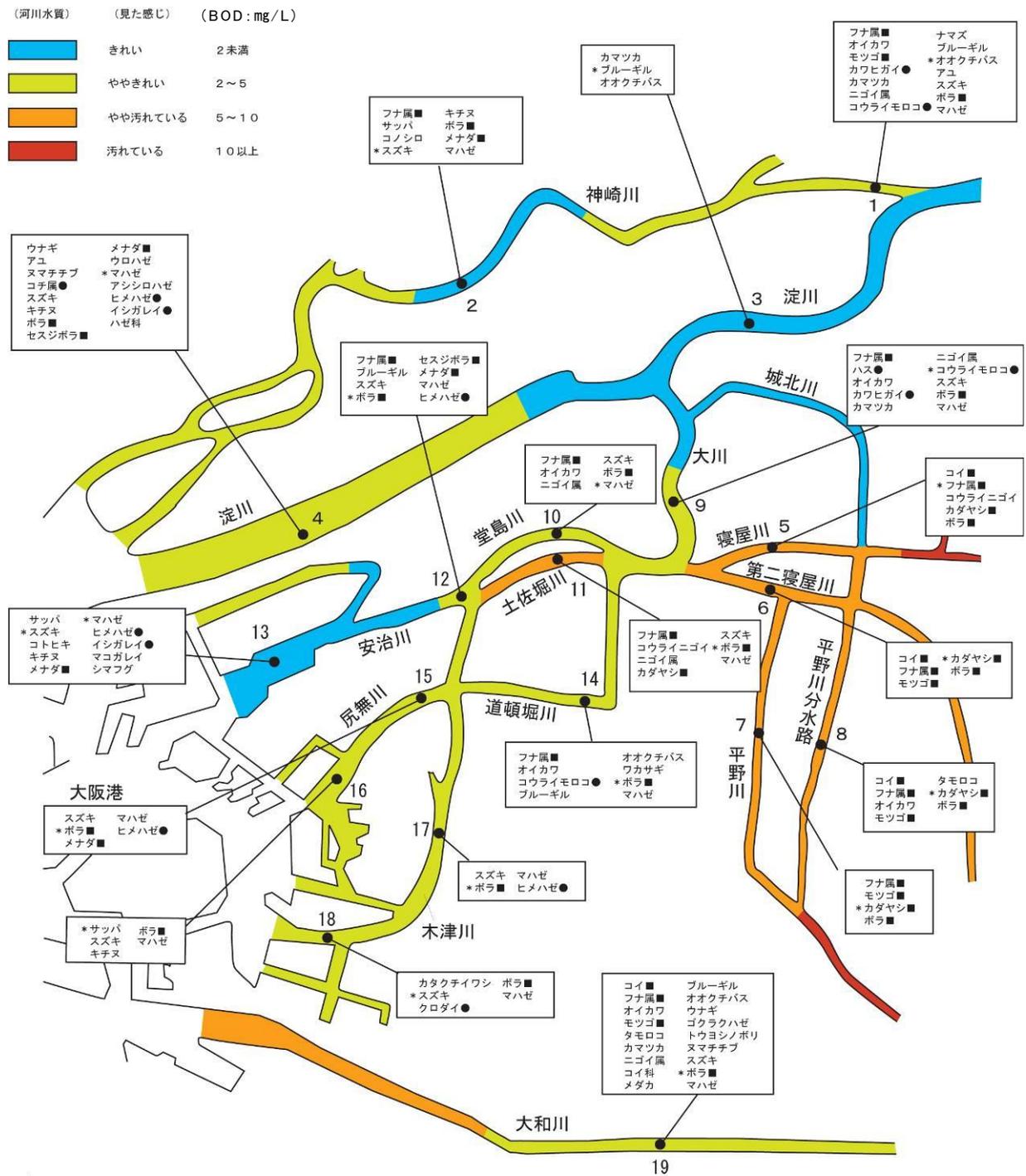


資料 2-10 市内河川魚類生息状況調査結果（平成18年度）

項 目	調 査 結 果
① 調査時期	春季調査 平成18年5月（5日間） 夏季調査 平成18年8月（5日間） 秋季調査 平成18年11月（5日間） 冬季調査 平成19年2月（6日間） ※冬季調査は天候不良の影響により、予定より1日延長しました。
② 調査場所	大阪市内河川水域 19地点
③ 調査結果	ア. 今回の調査で生息が確認された魚種は、18科39種3,660個体でした。 （魚類の分布は資料2-11） イ. 今回の調査で多くの種類が確認された地点は、大和川（17種）、神崎川上流（14種）、淀川下流（14種）でした。 ウ. 前回の調査（H13年度）で初めて魚類の生息が確認された寝屋川や第二寝屋川では、引き続き魚類の生息が確認されました。 エ. 今回新たに調査地点に加えた平野川や平野川分水路では、魚の生息が確認されました。 オ. これまでの調査では、ボラ類やスズキなどの遊泳魚のみが採取されていた河口域で底生魚であるハゼ類が新たに確認されました。 カ. 四季別では、これまでの調査結果と同様に、春季及び夏季の採集個体数、魚種数は多く、秋季及び冬季の採集個体数、魚種数は少なくなる傾向を示しました。
④ 魚類の生息状況の変化	ア. 《河川ごとの魚種数の特徴》 魚類の確認種数が多い地点は、大和川（17種）、神崎川（14種）、淀川下流（14種）でした。一方確認種数が少ない地点としては、平野川（4種）、木津川上流（4種）、淀川上流（3種）でした。 イ. 《河川ごとの魚種の増減傾向》 前回（H13年度）と比較して確認種数が増加した地点は、安治川上流（5→8種）、安治川河口（9→10種）、尻無川河口（4→5種）など汽水域（淡水と海水が混じりあった薄い海水域）の地点で主に底生魚が新たに確認されました。 ウ. 《指標種の変化》 きれいな水質の指標種であるコウライモロコは前回（H13年度）と比べると4地点から3地点に、ハスは6地点から1地点へと減少しました。これらの地点では、特にDO（溶存酸素量）やBOD、その他の物理環境の悪化はみられないことから、水質環境の悪化を示すものではないと推測されます。
⑤ 河川ごとの特徴	ア. 《神崎川》 上流域では、前回の調査（H13年度）ではオイカワ、コウライモロコなど小型淡水性在来魚が多く確認されていましたが、今回の調査では、オオクチバスやブルーギルの外来魚が多く確認されました。下流域では、ボラ、スズキなどの汽水性海水魚がみられました。 イ. 《淀川》 上流域では、前回の調査（H13年度）ではオイカワ、コウライモロコなど小型淡水性在来魚が多く確認されていましたが、今回の調査では、オオクチバスやブルーギルの外来魚が多く確認されました。下流域では、マハゼ、ボラ、スズキなどの汽水性海水魚がみられました。 ウ. 《寝屋川・第二寝屋川》 前回の調査（H13年度）では、モツゴ、カダヤシなど比較的汚濁に強い淡水魚が確認されましたが、今回も引き続き確認されました。 エ. 《平野川・平野川分水路》 カダヤシ、モツゴ、フナ属など比較的汚濁に強い魚類の生息が確認されました。平野川分水路では、これらの比較的汚濁に強い種に加え、これらより、やや水質が良くなければ生息しないオイカワが採取されました。 オ. 《大阪市内河川》 道頓堀川でもオオクチバスとブルーギルの外来魚が確認されました。しかし、きれいな水質にすむコウライモロコは四季を通じて確認されたことから、水質は比較的良好的なまま維持されていると考えられます。 また大川では、きれいな水質にすむコウライモロコ、オイカワが多く採取されたことから水質は良好と考えられます。 安治川、尻無川、木津川など汽水域では、スズキ、ボラなど汽水海水魚が多く確認されました。また今まで確認できなかった底生魚が確認されました。 カ. 《大和川》 前回調査と同様コイ、モツゴ、オイカワなど豊かな魚類相が確認されました。

資料 2-11 市内河川の魚類の分布



備考：河川のBODは平成17年度の値を使用した。
大阪市内公共用水域水域測定結果（平成17年度）

- 注1. *は各地点において最も個体数の多かった種を表します。
 2. ●は清浄な水質を代表する種、■は汚濁した水質でも生きられる種を表します。
 3. 淀川下流でのハゼ科、大和川でのコイ科は稚魚であるため種の同定が困難であることを示します。そのため種数には計上していません。

資料2-12 下水道普及状況（平成22年度末）

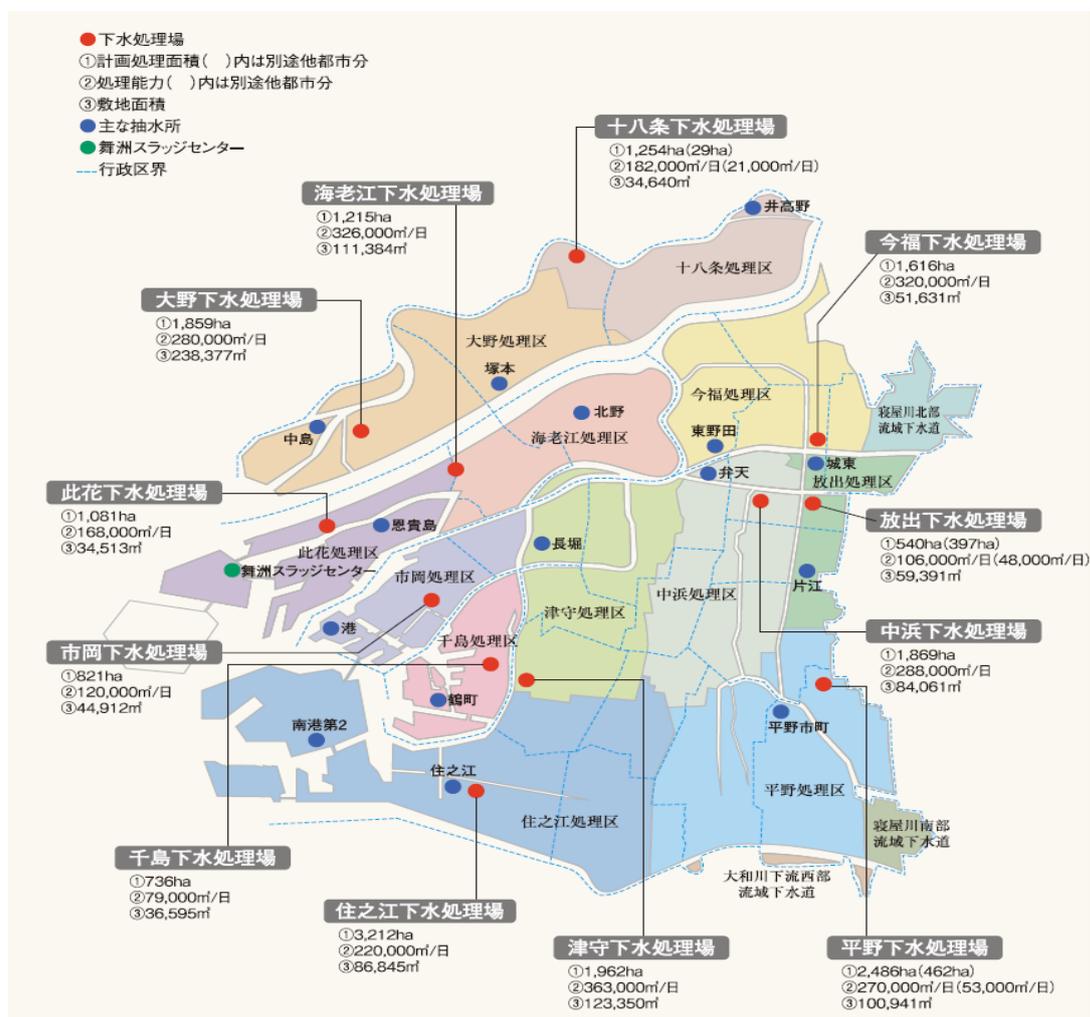
処理面積	190.50 km ²
処理区域面積普及率	99.2 % (市陸地面積191.95 km ²)
処理人口普及率	99.9 %
下水管渠延長	4,877 km
下水処理場	12 か所
抽水所	58 か所
下水処理能力	2,844 千m ³ /日

資料2-13 高度処理施設整備状況（平成22年度末）

高度処理施設	処理能力
急速ろ過池	347.2 千m ³ /日
嫌気好気法への改良	1,461.1 千m ³ /日
担体利用窒素除去法の導入	14.5 千m ³ /日

資料2-14 下水処理区と下水処理場

市内は、12の下水処理区と3つの流域下水道の区域に分けられています。



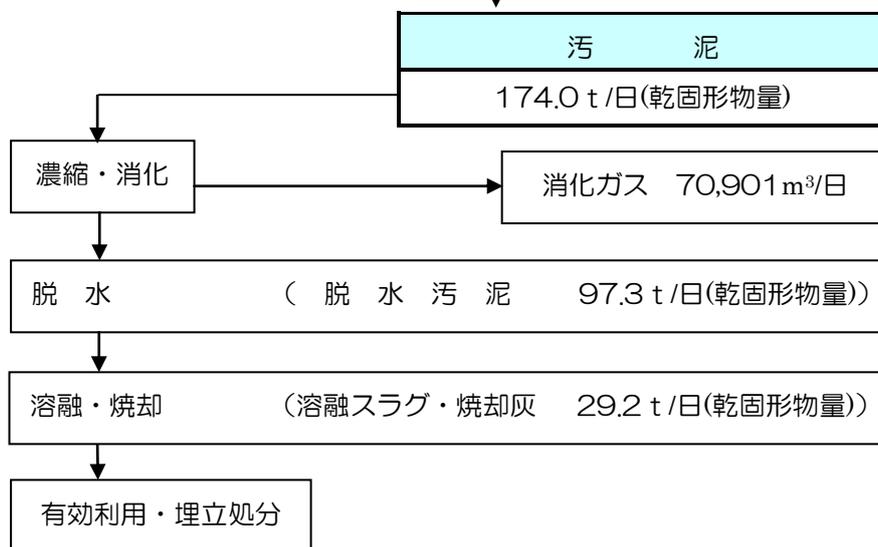
資料 2-15 下水処理状況（平成 22 年度）

【水処理】

流 入			放 流		
二次処理水量 1,737,157 m ³ /日					
	水質(mg/L)	負荷量(t/日)		水質(mg/L)	負荷量(t/日)
SS	100	180.6	SS	4	6.6
BOD	130	231.2	BOD	6.6	11.4
COD	68	118.5	COD	10	17.7
全窒素	25	42.8	全窒素	11	18.6
全りん	3.0	5.15	全りん	0.46	0.80

水質は市内12下水処理場における年間平均水質の加重平均値を示す。

【汚泥処理】



資料 2-16 水域別・行政区別・法律条例適用事業場数（平成 23 年 3 月末）

	行政区	瀬戸内海環境保全 特別措置法	水質汚濁防止法	大阪府生活環境の 保全等に関する条例	計
神崎川	西淀川	2	18		20
	淀川	1	1		2
	東淀川		1		1
大阪市内河川	北		2		2
	福島		1		1
	此花	1	24		25
	港		2		2
	大正	5	7		12
	住之江	1	4		5
寝屋川	西成		1	1	2
	旭	1			1
	城東	1	3		4
	鶴見		1		1
大和川	中央				
	平野		6		6
計		12	71	1	84

- (注) 1. 水域区分は、水質汚濁防止法第 3 条第 3 項の規定による排水基準を定める条例に基づきます。
 2. 大阪市内 12 下水処理場を含みます。

資料2-17 立入指導等の状況(平成22年度)

	公共用水域へ 排水する事業場	公共下水道へ 排水する事業場
立入事業場件数	59	6,212
水質基準超過件数	0	98
排水の一時停止命令	0	0
改善命令	0	0
改善勧告	0	4
その他指示	0	349

資料2-18 水質関係 法律・条例届出受理件数(平成22年度)

水域	法律・条例	瀬戸内海環境保全 特別措置法	水質汚濁防止法	大阪府生活環境の 保全等に関する条例
淀川				
神崎川上流				
神崎川下流			8	
寝屋川	2			
大阪市内河川	9		38	
大和川上流			3	
合計		11	49	

資料2-19 特定事業場・除害施設必要事業場数(平成23年3月末)

行政区	特定事業場数	除害施設必要事業場数 (非特定事業場を含む)
北	180	184
都島	83	64
福島	79	66
此花	101	124
中央	144	134
西	76	69
港	95	64
大正	88	83
天王寺	86	53
浪速	62	41
西淀川	156	213
淀川	189	180
東淀川	130	101
東成	179	146
生野	250	144
旭	103	50
城東	175	124
鶴見	114	91
阿倍野	70	34
住之江	122	145
住吉	83	41
東住吉	126	79
平野	218	181
西成	101	98
合計	3,010	2,509